

IV 良質な個別サービスの実施(障害児施設:居住サービス)

【評価項目】		a	b	c	Na	判断の理由
<b>A-1 利用者の尊重</b>						
<b>(1)利用者の尊重</b>						
1	1	○				知的の障害、言語による表現手段が困難または不十分な利用者が約6割～8割であり、コミュニケーションを図るため心理士、言語聴覚士などの専門家を職員として配置するとともに、タブレット端末を導入するなど工夫が確認できたのでa評価とした。
2	2	○				「華会」「夢プラン外出」など利用者が希望する活動を選択できる機会を多く設けられ、担当制を導入するなど職員がそれを補佐するしくみ作りが確認できたのでa評価とした。
3	3	○				個別にアセスメントがなされ、利用者の個別生活支援計画に基づいて、必要に応じて職員が常に声掛けや見守りが行われていることが個別支援計画及びサービス実施記録により確認できた。また、職員同士のコミュニケーションが良好であることも聞き取り確認できたのでa評価とした。
4	4	○				「なりたい自分」の意思表示の場を設け利用者の行動意欲を引き出している(「華会」)。職員は「その人らしさを大切に」の事業団の組織理念のもとに利用者の自己達成をサービス実施によって行っている事が確認できたのでa評価とした。
<b>(2) 利用者の権利擁護</b>						
5	1	○				職員同士で年に2度職員行動規範の読み合わせが行われている。人権擁護検討委員会が設置され、記録から人権擁護に関する具体的な取組が職員によって行われている事が確認できた。また職員間のコミュニケーションは良好に保たれ、互いにチェックし合う仕組みも確保されていることを聞き取り確認できたのでa評価とした。
<b>(3) 保護者との連携・交流</b>						
6	1	○				保護者会が定期的開催されており、職員からお便りによる行事参加の呼びかけ、利用者の状況報告など保護者に向けて情報の発信が丁寧に実施されるなど、保護者が訪問し易い施設づくりが行われている事が確認できたのでa評価とした。
<b>(4) 生活環境づくり</b>						
7	1		○			職員によるハード面での改善がいろいろと試行錯誤されていることが確認できたが、構造上の問題によって利用者にとってのプライバシーの尊重など限界がありb評価とした。建替え計画に期待したい。
<b>A-2 日常生活支援</b>						
<b>(1) 食事</b>						
8	1	○				管理栄養士を中心に、多職種連携により栄養ケア計画が個別にたてられて、変化があった場合にも素早く連携により改善が実施されていることを実施記録により確認できたのでa評価とした。
9	2	○				管理栄養士による嗜好調査が行われているとともに、現場での喫食状況の確認が行われていた。月に数回「自由選択パン」や「ほっともとの日など」選択食も行われていることが施設紹介DVDにより確認できた。普通食以外の利用者にはトレーの名前札に食事形態等が明記され必要な自助具についても管理がされていることが確認できたのでa評価とした。
10	3	○				夕食時間が1時間の幅をもって提供され、ゆっくりと食事が摂れる体制作りがなされている(ADL支援マニュアル)。また利用者に合わせてテーブルや椅子が工夫されている事が確認できたのでa評価とした。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
<b>(2) 入浴</b>						
11	1	入浴は、利用者の障害程度や介助方法など個人的事情に配慮している。	○			入浴方法についてはADL支援マニュアルに沿ってプライバシーの確保を含め行われている。同性介護を基本とし、リフト浴槽、共同浴槽、個人浴槽なども整備され個人的事情に合わせて利用できることが確認できたのでa評価とした。
12	2	入浴は、利用者の希望に沿って行われている。	○			シャンプーなどは個人の嗜好により準備するとともに、自立して入浴が可能な者は希望により毎日シャワー浴を利用できることが確認できたのでa評価とした。
13	3	浴室・脱衣場等の環境に配慮している。	○			新たにリフト浴を導入し、安心・安全・安楽の環境整備がされていたほか、プライバシー確保のためカーテンなどで視線をさえぎったり、床に籐マットを敷く、脱衣棚の高さ(高いものから低いもの)など随所に工夫がみられたのでa評価とした。
<b>(3) 排泄</b>						
14	1	排泄介助は利用者の障害程度や介助方法など個人的事情に配慮している。	○			車椅子介助を容易にできるトイレ間の幅、ポータブルトイレをつかっての個人個人にあわせた便器の大きさの調整がされていることが確認できたのでa評価とした。
15	2	トイレ環境に配慮している。		○		カーテンで視界を遮ることができるなどプライバシーに配慮があるが、臭い、音など遮るものが無くカーテン1枚であり排泄環境としては十分とは言えないと判断したのでb評価とした。建替えに期待する。
<b>(4) 移乗・移動</b>						
16	1	移乗・移動介助は、利用者の身体状況や介助方法など個人的事情に配慮している。	○			ADL支援マニュアルにより障害特性、身体特性にあわせた介助が行われていた。また、車椅子など自助具についてはオーダーメイドでの対応がされていることが確認できたのでa評価とした。
<b>(5) 衣服</b>						
17	1	利用者の個性や好みを尊重し、衣服の選択について支援している。	○			利用者が買い物の外出時に自分で選択をしている。それが出来ない場合には職員が本人の意向や趣味を考慮して購入していることが確認できたのでa評価とした。
18	2	衣類の着替え時の支援や汚れに気づいた時の対応は適切である。	○			ADL支援マニュアルに衣類が汚れた際にはその都度、すぐに更衣の支援を行うこととなっており、そのとおり行われていることが確認できたのでa評価とした。
<b>(6) 理容・美容</b>						
19	1	利用者の個性や好みを尊重し、選択について支援している。	○			3パターンが用意されており、本人の選択となっている。担当職員によりパターンの説明がおこなわれ自己選択と自己決定ができることが確認できたのでa評価とした。
20	2	理髪店や美容院の利用について配慮している。	○	-		利用者が地域の理美容利用を希望した場合、職員が付き添いなどの支援を行っているほか、職員による化粧やハンドマッサージが行われるとともに、男子利用者には毎日髭剃りが実施されていることが確認できたのでa評価とした。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
<b>(7) 睡眠</b>						
21	1 安眠できるように配慮している。	○				夜間における温度、湿度をチェックし、必要に応じてエアコンを利用している。1時間置きの巡回で利用者が安眠できるように温度管理等を行い、睡眠状況についての申し送りが行われていた。また、相部屋になっているので入居者の割り振りが難しいが職員がそれぞれの入居者の特性を踏まえて割り振りを行っている事が確認できたのでa評価とした。
<b>(8) 健康管理</b>						
22	1 日常の健康管理は適切である。	○				看護支援マニュアルによって行われている。嘱託医、協力病院を持ち看護師により連携が図られていることに加え、多職種連携により栄養ケアマネジメントを推進していることが確認できたのでa評価とした。
23	2 必要な時、迅速かつ適切な医療が受けられる。	○				緊急対応マニュアルにより、体調急変時には救急車の要請、県医療センター救急部への搬送、嘱託医の往診などが行われることが確認できたのでa評価とした。
24	3 内服薬・外用薬等の扱いは確実にされている。	○	-			看護マニュアル、誤薬防止マニュアルにそって行われており、内服薬は一包装するとともに、利用者氏名の声出し確認の上で服薬介助を行っていることが確認できたのでa評価とした。
<b>(9) 余暇・レクリエーション</b>						
25	1 余暇・レクリエーションは、利用者の希望に沿って行われている。	○				利用者の希望を聞き、職員が支援できる方法でカラオケやドライブ、買い物が実施されていることを職員から聞きとることができたのでa評価とした。
<b>(10) 外泊、外出</b>						
26	1 外出、外泊は利用者の希望に応じて行われている。	○				利用者の能力や家庭の状況に応じて外泊や外出が行われている。また利用者の希望に添えるように外出、外泊のプランを職員が支援していることを職員から聞きとることができたのでa評価とした。
<b>(11) 所持金・預かり金の管理等</b>						
27	1 預かり金について、適切な管理体制が作られている。	○				預り金管理要綱に基づき管理がされている。職員より4か月に1回保護者に小遣い用途状況や現金残高を報告していることが確認できたのでa評価とした。
28	2 まんが・雑誌の購読やテレビ等は利用者の意志や希望に沿って利用できる。	○				希望者には雑誌やまんがの定期購読の支援が行われていた。また、利用者が居間のTV番組と違う番組を希望する場合には他の部屋のTVが見れるように職員が付き添い、配慮していることを聞き取りにより確認できたのでa評価とした。
<b>A-3 自立支援</b>						
<b>(1) 療育の実施</b>						
29	1 利用者の発達段階に応じた適切な療育を実施している。	○				支援学校との連携や支援計画のアセスメントにより、各人の発達段階が把握されている。心理治療、音楽療法、STによる言語訓練、スヌーズレン、軽作業などのプログラムが用意されていることを個別の日課表により確認できたのでa評価とした。
<b>(2) 進路選択の支援</b>						
30	1 利用者の進路について支援を行っている	○				中学生からの福祉サービス事業所での実習など、進路選択が可能となるよう支援学校の担当教師と進路指導の機会を持ち、進路選択の支援を連携して行っていることが確認できたのでa評価とした。
<b>(3) 地域生活への移行</b>						
31	1 利用者の状況に応じ、地域生活への移行についての支援を行っている。	○				高校卒業後の地域移行の支援を支援学校・行政などとの連携をはかり行っている。また退園者にも門戸を開いて退園後の相談などにも応じていることが確認できたのでa評価とした。